



藍の花

体験!

北区

藍の一口メモ

明治期の篠路地区では、染料として藍が盛んに栽培されていましたが、外国の安価な藍や化学染料の輸入により藍栽培は終わりを告げました。その後、昭和59年に藍の伝統と文化を伝承していこうと、藍染めが始まりました。現在も、地域の人たちを中心にサークル活動や体験講座などで親しまれており、「北区の歴史と文化のまちづくり」活動の一つとなっています。

初めて藍染めを体験した広聴係の井上です。今月は私が藍染めの魅力に迫りました



自分で染めたTシャツの仕上がりに大満足

6月から7月にかけて、北区民セ座が開催されました。講師は藍染め振興会の椎野栄子さんと佐藤美智子模様付けから染め上げまで親切、丁の皆さんと一緒に参加した体験を基工程とさまざまな模様付けの技法を

④染める

～藍染め液に浸します



布をゆっくりと藍染め液の中に入れます。

染める回数や藍染め液に浸す時間で色が変わります

藍染め液から出した直後はこんな緑色でした



⑤酸化させる



緑色に染まった布は、空気や水に触れて酸化することで、鮮やかな藍色に変化します。

⑥完成です



完成したのは「型染め」技法で染めたものです

～ここでちょっとユニーク編～

特別な道具を使わなくても、身近にあるものや手でも模様を付けることができます。どれも自分だけのすてきな作品になりますよ。

～ビー玉と輪ゴム～

▼ビー玉をくんで輪ゴムで留めます。ビー玉の大きさや形、輪ゴムの太さや留める強さで模様に変化が出ます



▲ビー玉での模様作りは子どもたちにも大人気です

～クリップで留める～

▼クリップで留めるだけですてきな模様が付きます



▼花びら模様もクリップで簡単に作れるなんて驚きです



～手をつかむ～



▲▶手でにぎっただけでこんな模様ができました。まるで魔法の手ですね

～ひもで結ぶ～



▲しわの寄せ具合や結び強さを変えることでいろいろな変化が現れます。直線も波も自由自在に!

次はいよいよ

上級編へ